

救急の基本

ケガで出血している際、特に真っ赤な血が脈打つように出る動脈出血は短時間で大量の血が失われて命が危険。すみやかな止血が必要となる。

応急処置3つの目的	① 生命を救う 応急処置は、救命を目的とした救命処置を最優先で行う。	② ケガや病気をいま以上に悪化させない 傷病者の状態や訴えを十分に把握し、適切な応急処置を行う。	③ 苦痛を軽減させる 心身共にダメージを受けた傷病者にさらなる苦痛を与えない手当てを心がける。「頑張ってください」「すぐに救急車が来ます」などの言葉をかけて、気分が落ち込まないよう励ます。
------------------	--	--	--

応急処置で生存確率は2倍になる

心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、時間の経過と共に急激に少なくなっていく。そのため倒れている人を発見したら、すぐに119番通報するのが救急の基本である。しかし、救急車が到着するまでに全国平均で6分以上かかるため、その間に、勇気を持って救命処置にあたることが大切。心臓と呼吸が停止してから4分後に、的確に応急処置をした場合の生存確率は約45%、何もしなかった場合は約20%。このように生存確率には倍以上の開きがある。

助けを求める

閉じ込められたり、交通や通信が寸断されて孤立したりしたときには、音、記号、信号などを使って救助者に助けを求める。

助けを求めるために身につけておくもの	笛やブザーは、簡単に大きな音が出せるため、緊急時に備えて普段から身につけておくとうい（モールス信号を発信する際にも役立つ）。また、急病やケガに備えて、自分の氏名や、血液型、アレルギー、緊急連絡先などを書き込んだ「緊急連絡カード」をつくって携帯しておくようにする。
モールス信号	モールス信号は、笛など音の出るものや、のろし、光など視覚に訴えるもので意思を伝えることができる。 <div><div><div><div><div>●</div><div>s</div></div><div><div>—</div><div>o</div></div><div><div>●●●</div><div>S</div></div></div><div><div>●</div><div>短い音</div></div><div><div>—</div><div>長い音</div></div><div><div>●—</div><div>組み合わせで言葉を伝える</div></div></div></div>